

2017.3.31  
つくし保育園

## 平成 28 年度 園評価

○保育課程年間総括・保護者アンケート・職員の自己評価・第三者委員との話しあいをもとに事業計画に沿って園評価を行う。

＜子供の全面発達の保障・家庭との連携・地域の子育て支援の拠点・職員の資質向上  
民主的集団作り・保育園の社会的責任・地域・専門機関との連携＞

・ 12月中旬以降から嘔吐する子・職員が増えウィルス性胃腸炎が急激に広がり市役所・中北保健所に連絡し指導のもと症状のある子と調理従事職員の便を採取し、ノロウィルスが検出された。給食の提供が2週間停止となり保護者へお弁当の依頼をした。感染が広がらないよう0・1才児は使い捨てのおむつ替えシート、紙おむつ、保育者もビニールエプロンを使用した。1/6の再検査では検出されなかったため1/10より通常保育となった。感染症が出るたびに看護師と相談しながら予防対策やおう吐物処理も年2回職員間で学び確認しているが予想以上の感染力だった。各職員の自己評価の中でも特に給食従事者や看護師からも今回の感染拡大を防ぎきれなかったことや自分の大著管理や手洗い・うがいの徹底など反省が出されていた。今回を教訓として今まで以上の感染予防をしていく。また、保健所の指導に基づき感染症が流行したら二次感染が広がらないように保護者への協力を求めていく。

・ 薄着で過ごすことを職員一人一人が心掛けながら、鍛錬や身体づくりをしてきた。昨年度、子どもの体調や気温に合わせた配慮について保護者から「体調悪く休んだ次の日の水あそびの配慮をしてほしい」等意見をいただき衣服調節や活動を考えるなどその時々での配慮への意識も高まり無理なく進めてくれた。

・ 機嫌や体調が悪くても熱がなければ登園する、発熱しても翌日登園して発熱を繰り返し長引くなど子どもの体調管理と就労の両立が社会的にも大変になっている。仕事の都合がつかず休めないなど親の就労の大変さもあるが、そこは理解したうえで“子どものためにはゆっくり休める時間も大切である”ことを伝えながら具体的な対策方法についても課題となっている。

・ 事故報告…事故を起こさないためにも日頃から「ひやっ」とした場面、場所等をその都度出し合い対策、対応について確認をして事故防止へと繋げてきたが、受診をする事故は10件ありまた、大事故に繋がる職員のミスもありその都度職員間で反省と対策を考えて

きた。“命を預かっている”という責任の重さを感じ、改めて気を引き締めていく。また、報告書の様式を変えたことで記入もしやすく、どんなことが起きて、どう話し合ったのか（対策）が見返しやすくなった。

・どのクラスも散歩、泥んこ、水・プール遊びで身体を思いきり使い、心身ともに解放しながら楽しんできた。未満児クラスでは苦手な子がいないほど水遊びが好きになり、以上児クラスでは仲間と相談しながら一つのもを作り上げる活動を意識しながら取り組み、みんなで船をつくりあげ楽しい保育活動となった。戸外遊び散歩等で鍛えてきた足腰と気持ちを解放しながら遊びこみ心も身体も大きくなった力が、“できるように頑張る”と運動会への意欲へと繋げてきた。悔し涙を流しそれでもやめようとしないうちもたちの心の葛藤をのりこえた運動会での飛躍は著しいものだった。また、お店屋さんの品物作りは子どもたちの個性あふれる作品ができ手先の活動へも繋がった、これまでのあそび・経験が“考える、表現する、語る”力となっていくのを感じた。生活発表会では、未満児クラスはいつも遊んでいるごっこ遊びや友だち保育者と共感する姿、以上児クラスは保育者と友だちとイメージを共有しセリフや表現の仕方を考え「よりよくするには」と作り上げた劇を舞台の上で堂々と表現できた。取り組みの中で悩み、演じるときの緊張などで葛藤することもあったが当日は、父母に温かく見守られながら落ち着いて堂々と演じる姿や子どもたちの力に感動した。楽しい充実した生活、遊びの中で培った力が行事により太らせていく事を改めて感じた。他職員からのアドバイス・指摘は一生懸命さのあまり素直に受け取れない事もあるが自分の考え・思いも伝えながら一度受け止め、あゆみよりながら取り組んできた。子どもの意見・思いをくむこととともに、その時の保育者の声掛け、投げかけ等が指導となり、より子どもが成長する力になる。ここをどう保育していくかは今後の課題でもある。

・日頃の保育や行事などの様子を写真に撮り廊下に掲示しながら保護者につくしの保育を伝えてきた。送迎の際に足を止めて写真をみては子どもと一緒に話をしたり微笑む姿などが見られコミュニケーションの一つにもなり好評だった。

・地域の中で畑を借り、野菜の苗植えや草取りで地域の方に声をかけてもらい交流しながら楽しく野菜作りができた。土壌の良さもありさつまいも（シルクスウィート）の出来栄も良く、豊作だった。甘～いやきいも、クッキーなどとてもおいしかった。畑まで距離があり大変さもあるが苦勞（頑張った）した分、収穫の喜びは大きく、全職員・全園児で働き、収穫する喜びも感じる事ができた。来年も畑づくりを頑張っていく。

・食育の活動では、日本伝統の味噌作り・山梨のほうとうづくり・もちつきなど予定してきたが、感染症の流行で味噌作り以外は中止となり残念だった。状況を見ながらだが今後も伝統を大事にしながら料理活動を続けていく。また、みんなで作る、食べることの雰囲気

気や楽しさを感じ、みんなと一緒に食事のマナー等も自然に身に着けられるようにしてきた。

・朝日町のハナミズキ祭りや病院の健康まつりに参加して、地域のお父さんお母さんの子育ての悩み等、相談に乗れるようになってきた。地域からの相談はあまりなかったが、保護者や卒園児の親から小学生についての相談があり随時、話を聞いてきた。子育てのちょっとしたことを気軽に話せる、共感しあえる場・仲間がいることが大きな支えになるのだと感じ、支援の大切さを感じた。また、つくしの例年行事（節分、ハロウィン）などでつくしの子がくるのを地域の方々が楽しみに待っていてくれる様子が分かり、とてもありがたく嬉しい。今後も地域との繋がりを大切に、地域や保護者の子育て支援も行っていく。

・県、市、保育士会の研修、共立福祉会の研修、など様々な学習をして保育へ活かしてきた。中井友子先生を招いて描画の基礎から実践を二園で学び、学びの中で掴んだものが一人一人の意識となり各年齢発達を抑えた活動ができていた。やってみたいことはやる、子どもの発信・発想を見逃さない保育が実践報告会の中でも発表されていた。自分の保育の振り返りや新たな保育の視点の発見のある有意義な学びができた。参加して様々なことを学び、保育へ活かしたり、職員間でも伝え合い、個の学びを全体の学びとしてきた。また、常に“子どもを中心”として職員間で意見を交わしてきた。思いのぶつかり合いもあるが「子どもにとってどうか」と考えると自然に同じ方向を向いてどんな関わりがいいのか等考えてくることができた。